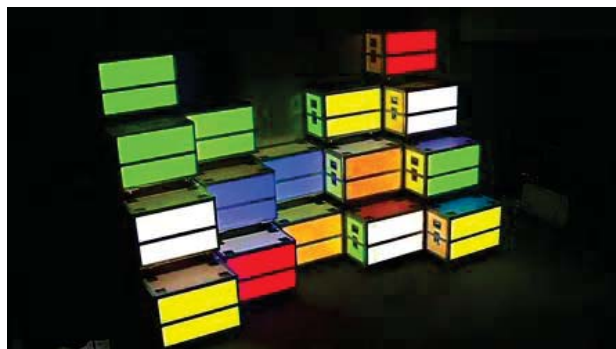


Q) プロジェクションマッピングとは？

プロジェクターを用いたコンテンツ投影は、平面スクリーンに投射するのが一般的です。平面に限らないオブジェクト(物体や空間)に映像を投影する映像演出手法がプロジェクションマッピングと呼ばれています。

海外では、かなり以前から歴史的な建物等にマッピングを行い話題を提供してきました。
日本でも、ここ数年一般的な認知度も上がってきています。



Q) どのような事例がありますか？

大きな建造物にマッピングをするイメージが一般的だと思いますが、スポーツのコートや自動車のボディ、プラモデルなどにマッピングする事例もありました。

ユニークなものでは劇場の舞台装置、人物の顔などの事例もあります。
コンサート、発表会、ファッションショー、博覧会、など活躍の場も多岐にわたっています。
実際に光和で行ったマッピング事例を動画にてご覧いただけます。



■ 壁面へのプロジェクションマッピング
高輝度プロジェクター2台で投射。メディアサーバーPandras Boxを使用

外部サイトへリンクします

<https://www.youtube.com/watch?v=vLB1p0IWZT0>



■ 自動車のボディへのプロジェクションマッピング
小型プロジェクター2台で投射。メディアサーバーPandras Boxを使用

外部サイトへリンクします

<https://www.youtube.com/watch?v=vIYbTiCLNmU>

Q) どんな効果があるのか？

対象物の色や形をビデオプロジェクターの映像によって、変わったように見せ、空間を劇的に変化させることができます。
平面のはずの壁が歪んだり、壁からオブジェクトを飛び出させたり、また静止しているオブジェクトが動いて見える演出などが一般的です。商品のカラーバリエーションの展開説明なども効果的です。

Q) なぜ、今プロジェクションマッピングなのか？

近年のビデオプロジェクターの進化によって、明るさや詳細が向上しています。それによって、よりスケールが大きく、よりクオリティの高いプロジェクションマッピングが可能になっています。又、映像制作ツール・映像送出機器の進化や低価格化やパソコンの高性能化によって、映像制作が身近になった事も要因の一つです。



Q) プロジェクションマッピングの仕事で、注意すべきポイントは？

まず、周囲の環境の暗さが必要です。暗ければ暗いほど、より高い効果を得られます。又、道を隔てて、向かいのビルなどに投影する際、法的に許可が下りない場合もあり、投影するスペースの確保に苦労するケースもあります。さらに、使用するビデオプロジェクターや映像送出機器の選定も重要なファクターの一つです。

弊社では大型から小型までTPOやご予算に合わせた機材ラインナップでプロジェクションマッピングの現場をサポートしています。



高輝度、軽量のPanasonic DZ21K
幾何学補正機能も充実
専用フレームにより縦置き投射も可能



小型ながら幾何学補正機能を搭載する
EPSON-G6550WU
軽量、省電力で様々な設置環境に対応



多彩なメディアフォーマットに対応し
仮想の3D空間を自由にコントロールできる
Coolux Pandras Box Server Pro